

■本居春庭 国学者。失明之苦難を克服して名著「詞の八衢」を著すなど、父宣長の研究を大成、国学史上に不朽の貢献。

もとおりはるにわ

・ ・ ・ ・ ・ 1763 = 本居宣長が賀茂真淵に入門した年、再婚した津分部町の医官の娘だった母の実家で、長子に生まれる。

意次側用人・1767 = 4歳：祖母が死去したほかは波瀾も無く、

・ ・ ・ ・ ・ 1770 = 7歳：弟妹が次々と誕生するなか、生涯の学業に取り組み始めた父宣長の薫陶を受けて育つ。
前川世平次を師として手習いを始め、

田沼意次老中1772 = 9歳：身体虚弱であったが、

黄表紙始・・1775 = 12歳：以降、父の命を受けて、図書・地図の謄写に励み、

・ ・ ・ ・ ・ 1777 = 14歳：和歌を作り始め、

・ ・ ・ ・ ・ 1780 = 17歳：名を健亭と改め、

・ ・ ・ ・ ・ 1781 = 18歳：

天明大飢饉始1782 = 19歳：とくに「活用言の冊子」を書写して、活用研究の志しが芽生え、

蘭学階梯・・1783 = 20歳：病臥したほかは、しばしば参宮・旅行、

意知刺殺事件1784 = 21歳：弟春村が津の薬種商小西太郎兵衛の養子となる。

田沼意次失脚1786 = 23歳：妹飛騨が結婚、渡辺直麿と吉野に花見して近畿を巡り、

寛政改革始・1787 = 24歳：父宣長が執筆を続けてきた代表作「古事記伝」の版下づくりを始め、父の他の著作の版下も手がけたことで、深い学識を身につけ、

初の横綱・・1789 = 26歳：父と名古屋旅行、

異学の禁・・1790 = 27歳：次妹美濃も婚約するなど諸事円満であったが、「古事記伝」巻14の浄書を終え、父とともに上京した直後、

混浴禁止・・1791 = 28歳：突然眼病を患い、全国に及ぶ地図を始め、膨大な古典・史書・故実等を複製してきた謄写作業も終る。

父子の衝撃は大きく、眼病悪化を食い止めようと、

松平定信引退1793 = 30歳：京都や大坂の名眼科医を訪ねまわるなど、手を尽くすも、

写案・・・・1795 = 32歳：ついに失明、父の意向で鍼医を修業すべく上京、

昌平覺始・・1797 = 34歳：帰郷、父の配慮で結婚し、やがて長女伊豆をもうける。

古事記伝・・1798 = 35歳：父の「古事記伝」刊行。

蝦夷地直轄始1799 = 36歳：父宣長が最古参の門人大平を養子として家督を継がせ、和歌山藩の扶持米の一部が春庭に回るよう配慮、

本居宣長没・1801 = 38歳：遺言で春庭が喪主となるよう配慮し、父宣長が死去。失明の絶望を克服すべく活用研究まともに掛かり、

膝栗毛始・・1802 = 39歳：大平が正式に相続し、本居大平厄介の身となる。父の遺した門人400人中、30名弱のみが従い、他は大平の

弟子となる。鈴屋社中の宣長追慕の一環として「古事記領題歌集」を編んで序文を書き、

いざノ来航・1804 = 41歳：長男誕生、

青洲麻醉手術1805 = 42歳：平田篤胤が入門、「古事記伝注釈目録」を作成するなどしながら、妹美濃と妻杏枝の口述筆記で、

いざノ報復・1806 = 43歳：ついに活用研究の成果「詞の八衢」をまとめ、その後も推敲を重ねて、

フェート号事件1808 = 45歳：刊行した。

間宮海峡発見1809 = 46歳：*本居大平が一家を挙げて和歌山に移住後、松坂に留まって{後鈴屋社}を組織するや、入門者が急増、

この間、血統よりも学統を守るべきとの念から、大平の長男建正が秀才だということで養嗣子とする。

浮世床・・・1813 = 50歳：若狭の学僧妙玄寺義門が来訪、以後親交する。

黒住教・・・1814 = 51歳：*「詞の八衢」に続く語学研究の書「通路」を書き起こす。

歌才は父を超えて、語学者よりも歌人として知られ、

伊能測量終・1816 = 53歳：家集「後鈴屋集」前編3巻刊行、

杉田玄白没・1817 = 54歳：

水野忠成老中1818 = 55歳：門下の歌集「門のおち葉」を編集、

群書類従刊・1819 = 56歳：養嗣子建正が夭折したため、大平の次男清島を所望して不和となるが、

蝦夷地直轄終1821 = 58歳：清島も急逝して解消、

いざノ来日・1823 = 60歳：平田篤胤が初めて松坂に来訪、

・ ・ ・ ・ ・ 1826 = 63歳：

いざノ事件・1828 = 65歳：*「通路」を書き終えてまもなく、没した。

没後、家集「後鈴屋集」後編3巻刊行。